化学・生物総合管理の再教育講座（講義内容）

後期

科目No.	452	科目名	リスク学事例研究2		サブネーム	経営とリスク2		
共催機関名	ディレクトフォース	レベル	中級		講義枠	月曜日	講義時間	18：30～20：00
科目概要	前期においては、目まぐるしく変化する市場動向の正確な把握とそれへの対応の最適化が経営のリスクを軽減し、成功に導くものであることを各社の具体的なケースを紹介した。後期では、ものづくりの各ステップにおける最適化、すなわちリスクとコストのミニマイズと成果のマキシマイズの内容を各企業の具体的ケースで紹介すると共に、今後の日本を牽引すると期待されるベンチャービジネスの状況についても解説する。							

サブタイトル	№	講義名	講義概要	講義日	教室	講師名	所属
⑴ 企業成長の鍵－研究開発	1	化学産業における研究開発	日本の自動車産業、IT産業等の発展を脇役として支えているのが化学産業である。新規材料の開発（例として炭素繊維の開発・市場化）及び既存材料の改善・原価低減（例としてポリエステル原料テレフタル酸の生産技術革新）という二大課題への取組みを紹介する。	10月3日	1号館301	浅野応孝	三菱化学　元専務
	2			10月17日			
	3	自動車産業における研究開発	自動車そのものには、当然ながら危険が一杯である。快適性と安全性、安全性と経済性等、矛盾する課題を解決しながら、新車を開発する難しさと喜びを具体例で説明する。	10月24日	1号館304	三宅健作	三菱自動車　元取締役
	4			10月31日			
⑵ 知財戦略	5	特許戦略	特許戦略は現代企業にとって極めて重要なものである。特許の成否が即事業の成否となるケースも多い。一方で企業内部においては成果配分の最適化をめぐる問題も多発する傾向にある。如何にリスクをマネジメントするかを紹介する。	11月7日		日原　健	東邦化学　元専務
	6			11月14日			
	7			11月21日			
	8	技術移転	日本の企業からは数多くの技術移転がなされているが、その交渉から実施、フォローの各段階では極めて大きいリスクが潜在している。中国宝山製鉄所への技術移転の経緯を紹介しつつ、これを通じて学んだものを説明する。	11月28日		梅津善徳	新日鉄　元中国協本部
	9			12月5日			
⑶ 設備建設と製造現場におけるリスク・コスト軽減	10	設備建設	買収したスペイン企業（現法）において、彼らにとっては初めての化学品の設備を建設したが、種々のトラブルが発生しスタートが大幅遅延した。その原因分析から今後のリスクマネジメントのあり方について論じる。	12月12日		合田隆年	宇部興産　元専務
	11	原価低減	グローバル化する事業展開の中では、現有中核製品の基盤強化のためにあらゆる努力がなされている。生産管理、品質管理、原価低減等をIE、VAを切り口として具体的に説明する。	12月19日		高瀬親史	日立化成　元執行役員
	12			1月16日			
⑷ ベンチャービジネス	13	ベンチャーの起業と成否をわけるもの	かつてアメリカ経済を再活性化させたものの一つとして、ベンチャービジネスがある。日本においても、それの育成強化が不可欠とされているが、その現状はどうであろうか。技術と市場のミスマッチ、資金の不足等でいわゆる「死の谷」を越えられぬものも多い。具体例を挙げながら起業から公開（成功した場合には）までのリスク回避策を論じる。	1月23日		高井俊成	日本長期信用銀行　元常務執行役員
	14			1月30日			
⑸ 事業再生	15	ケーススタディ	不幸にして経営破綻を招来した企業を再生するには、どうすればよいか。コアとノンコアの選別から始まる再生のステップを具体例を挙げながら説明する。	2月6日		近藤勝重	ダイエー　元ダイエーホールディング社長